

チャイルド・リサーチ・ネット (CRN) とは?

CRNは、子どもを取り巻く諸問題に関心を寄せる研究者・実践家のネットワークを構築する、インターネット上の子ども学研究所です。日本語・英語・中国語(簡体字/繁体字)の3言語によるウェブサイトでは、医学、教育学、発達心理学、脳科学、社会学など様々な学問の専門家による研究成果や、子どもや育児・保育・教育に関わる実践家・保護者によるレポートを、国内外から広く集めて発信しています。また、ウェブサイト以外でも、国際的な学術交流活動や、重要な社会問題に関する研究会を開催しています。子どもたちの未来のために、みなさまのご参加を心よりお待ちしております。

「子ども学」とは?

世界の子どもを取り巻く諸問題を解決するためには、従来の学問分野を越えて学際的な研究体制が必要ではないか—このような問題意識から、小林登名誉所長は「子ども学 (Child Science)」の考え方を提唱しました。子どもは生物学的存在として生まれ、社会的存在として育ちます。「育つ力」をもった子どもは親・家庭・学校、そして社会の「育てる力」との相互作用によって体を成長させ、心を発達させます。この「成育」の営みを支援していくのが「子ども学」のミッションです。「子ども学」は、自然科学・社会科学・人文科学の知見を総合した「人間科学」であり、様々な領域の専門家の対話を促します。

こんな方におすすめ



- 子どもをめぐる問題について、多領域の視点からの情報を得たい方
- 子育てや教育に関する海外の情報を得たい方
- 子どもに関する調査データを調べたい方

● CRN のあゆみ ●

- (年度)
- 1996・日本語・英語サイトオープン
・シンポジウム「マルチメディア社会の子どもたち」
 - 1997・シンポジウム「中高生のデジタルな友達づくり」
・ジェーン・グドール博士、ジェイ・ベルスキー博士講演会
 - 1998・国際シンポジウム「メディアは子どもをどう育てるのか?」
・CRNウェブサイト「WEBデザインアワード」銀賞受賞
 - 2000・国際シンポジウム「21世紀の子育てを考える」
 - 2001・研究拠点「ながやまチーきち」開設(～2002年)
 - 2002・CRN 実践保育研修会「保育の質を考える—心とからだを育む視点から」
・「子ども学研究会」発足(日本子ども学会の前身)
 - 2005・中国語(簡体字)サイトオープン
 - 2007・第1回 東アジア子ども学交流プログラム(上海・長沙)
(以降、「子どもの成長・発達と生活環境」、「子どもに優しいグランド・デザイン」、「脳科学」、「幼小接続」、「保育の質」、「遊びと学び」などをテーマに年1回のペースで、東京、中国大陸各地、台北などで、東アジア子ども学交流プログラムを開催)
・CRN設立10周年記念国際シンポジウム
 - 2012・中国語(繁体字)サイトオープン
・第1回、第2回「放射線と子ども」研究会
 - 2013・榊原洋一が所長に就任、前所長の小林登は名誉所長に
・第1回ECEC研究会「日本の保育の課題と展望」
・第2回ECEC研究会「遊びと学びの子ども学～ Playful Pedagogy～」
・第3回ECEC研究会「遊びの質を高める保育のあり方」
 - 2014・ドゥーラ座談会
「子育てしやすい社会へ～ドゥーラ的な発想を軸に考える～」
・第10回東アジア子ども学交流プログラム
「遊びから学びへ～脳科学の視点から～」
・第4回ECEC研究会
「世界の保育と日本の保育～遊びの中に学びを探る～」
 - 2015・第5回ECEC研究会
「世界の保育と日本の保育②～4カ国との比較から日本の保育の良さを探る～」

● CRN の組織概要 ●

運営体制

所長 ● 榊原 洋一 (お茶の水女子大学副学長)
名誉所長 ● 小林 登 (東京大学名誉教授、国立小児病院名誉院長)
特別顧問 ● 石井 威望 (東京大学名誉教授)
コーディネーター ● 劉 愛萍、小川 淳子 (ベネッセ教育総合研究所)
研究員 ● 河村 智洋、福澤(岸) 利江子、長田 有子

所在地

〒206-0033
東京都多摩市落合 1-34
ベネッセ教育総合研究所 内

チャイルド・リサーチ・ネットは
ベネッセ教育総合研究所の支援のもとに運営されています。 Benesse® 6CRNJP

Welcome to **CHILD RESEARCH NET**
We are a non-profit organization
in Japan devoted to thinking with
and about children

子どもは未来である



子ども学研究所
チャイルド・リサーチ・ネットの
ご紹介



<http://www.crn.or.jp/>



ごあいさつ

事実に立脚した科学を目指す「子ども学」

「子ども学」の基本的な立場は、第一に学際的事実であり、第二に事実に立脚した科学を目指すことです。子どもに関わるさまざまな学問や実践を、できるだけ透明で中立的な視点で束ねる、そんな「子ども学」が私たちの目標です。さらにチャイルド・リサーチ・ネット(CRN)は、上記の理念の実現を日本国内だけで目指すのではなく、グローバルな視点で共有し深化させるための国際的な「場(Arena)」を提供してゆきたいと思っております。是非CRNを有効にご活用ください。



CRN所長。医学博士。お茶の水女子大学副学長。
1951年生まれ。専門は小児神経学、発達障害。

榊原 洋一

学際的な「子ども学」の必要性

まず申し上げたいことは、何故子ども問題の予防や解決に、「子ども学」という学際的な立場で話し合う必要があるのかということです。現在の子どもをとりまく諸問題の原因は多様であるため、子どもの人間科学の基盤となる理念を学際的な視点から考える必要があるからです。その理念はシステム情報論、脳科学、子ども生態学などを柱として、異なった立場の研究者、実践家、保護者が問題解決に向けて話し合うことです。CRNがこの実現に役立てば幸いです。



CRN名誉所長。医学博士。東京大学名誉教授。
国立小児病院名誉院長。1927年生まれ。

小林 登

ECEC研究

CRNでは、日本の保育・幼児教育をテーマの中心に据え、2013年度からECEC研究に取り組んでおります。ECECとは、Early Childhood Education and Careの略語で、人生初期の教育とケアを意味します。その中でも、保育・幼児教育は、後の就学や学習への影響が大きく、その充実が国の経済成長につながるなどが立証されつつあり、近年、世界的に大きな関心を集めています。

日本の保育・幼児教育は改革が進む一方、課題も残っています。例えば、日本の保育・幼児教育の特徴は世界と比較して十分に把握されているでしょうか。もっと世界で認知されるようになるためには、何をすべきでしょうか。CRNでは、こうした日本の保育・幼児教育の課題を世界と比較しながら洗い出すとともに、その具体的な解決策を見いだす一助になればと、保育者や保護者、研究者が一堂に会する議論の場として、ECEC研究会を2015年度までに5回開催いたしました。各回の概要をご紹介します。

第1回「日本の保育の課題と展望」(2013年6月)

第2回「遊びと学びの子ども学～Playful Pedagogy～」(2013年10月)

第3回「遊びの質を高める保育のあり方」(2014年2月)

第1回・第2回では、保育・幼児教育をめぐるアジアやオセアニア諸国・地域の動向や事例と、日本の保育・幼児教育とを比べながら、保育・幼児教育の「質」の保証や、幼児期における、学びにつながる遊びの重要性などについて、研究者同士が意見を交換しました。

第3回では、遊びと学びに関する考察を継続する一方、研究者同士の議論に加え、保育者参加型のワークショップを行いました。まず、遊びの素材を提案する際に保育者が心がけるべきことは何かなど、さまざまな論点から研究者同士が意見を交換。これを踏まえて、8名の保育者が、公私立、また幼稚園、保育所、認定こども園の枠を越え、共通のテーマのもとに話し合いました。



CRNの活動内容紹介

CRNでは、シンポジウムや研究会など実際の場での交流活動と日・英・中3言語のウェブサイト上での情報発信を通して、子どもをとりまく諸問題の研究に取り組んでおります。以下に最新の活動内容を振り返りながら、ご紹介いたします。

第4回「世界の保育と日本の保育～遊びの中に学びを探る～」(2015年2月)

第5回「世界の保育と日本の保育②～4カ国との比較から日本の保育の良さを探る～」(2015年10月)

第4回・第5回では、保育・幼児教育の国際的な比較という点を、これまで以上に重視しました。第4回では、イタリアのレッジョ・エミリア市、ピストイア市、ニュージーランド、中国の上海市での実践例、第5回では、イギリス(イングランド)、韓国、オランダ、スウェーデンでの実践例を具体的に紹介し、日本の保育・幼児教育と対比しました。



さらに、第5回では研究者による講演だけでなく、来場者全員によるワークショップも行いました。保護者、保育者、研究者、小・中学校教諭、行政関係者など、多様な立場や視点から、各国から得られる日本への示唆、世界と比較した日本の保育・幼児教育の長所などが論じられました。いずれの研究会でも、議論された内容はレポートにまとめ、どなたにもご覧いただけるようにウェブサイトに掲載しております。

また、日本の保育者や保護者が日ごろの保育や子育ての実践を考へるヒントになればと、保育・幼児教育の多様なあり方を発信することにも力を入れています。具体的には、世界各国のECECの特徴を研究者が具体的な実践例をもとに分析する論文や、各国在住の保護者が我が子の受けている保育・幼児教育を紹介するレポートを公開しております。ぜひご一読ください。

世界の幼児教育レポート

<http://www.blog.crn.or.jp/lab/01/>

子育て応援団

<http://www.blog.crn.or.jp/report/09/>



東アジア子ども学交流プログラム

CRNは、日本、中国、台湾、韓国などの東アジアの研究者が子どもを取り巻く諸問題の解決策について話し合うシンポジウムを主催しています。2014年度に開催した第10回目のテーマは、「遊びから学びへ～脳科学の視点から～」。中国、台湾、日本の研究者、中国の幼稚園教諭の計300名が一堂に会し、議論を交わしました。これまでに実施した各回の内容報告とともに、議論をまとめた冊子をウェブサイトに掲載しておりますので、ぜひご覧ください。



コーナーの紹介

- 研究室 ●
ECEC、ドゥーラ、子どもとメディア、発達障害、子どもの健康と発達など、子どもに関する多様な情報を発信。研究者や実践者による学際的な論文・レポートなどを掲載。
- 論文・レポート ●
CRNを支援するベネッセ教育総合研究所が、子どもと保護者を対象に行った、育児・教育に関する調査データを掲載。
- 調査データ ●

英語版



日本語版



中国語版

CRN

ようこそチャイルド・リサーチ・ネットへ

<http://www.crn.or.jp/>

日本語、英語、中国語
(簡体字／繁体字)の
3言語のサイトがあります